

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

第6学年国語科学習指導案

単元名

「新1年生の保護者の方に、
千駄木小学校のよさを伝える推薦文を書こう」
学習材名「日本文化を発信しよう」（光村図書 6年）

日時：令和4年2月18日（金）5校時

児童：文京区立千駄木小学校 第6学年1組 39名

担任：文京区立千駄木小学校 主幹教諭 田畑 朋恵

指導者：中野区立平和の森小学校 主任教諭 松江 宜彦

1 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係について理解することができる。[知識及び技能] (2)ア
- (2) ①書くことにおいて、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開をすることができる。[思考力、判断力、表現力など] B(1)イ
②書くことにおいて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力など] B(1)エ
- (3) 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに進んで取り組み、学習の見通しをもって推薦文を書こうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①書くことにおいて、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②書くことにおいて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに進んで取り組み、学習の見通しをもって推薦文を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

光村図書6年の「私たちにできること」の単元では、提案する文章を書く学習を行った。全体を通して筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や、展開を考えることに重点を置いて指導した。その際、多くの児童は情報（事実）と自分の意見とを区別して書くことができていた。しかし、選んだ情報を正しく読み取ったり、自分の意見を補完する情報を選択したりすることには課題が残った。また、推敲の段階では、誤字や脱字の修正はできるものの、自分の考えが伝わる書き表し方になっているかという観点で修正した児童は少なかった。

そこで、本単元では、これまでに身に付けたことを活かし、図表やグラフなどを用いて、つながりを意識して文章全体の構成を考えて書く力を定着させていきたい。その際、評価シートを用いながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導する。

(2) 学習材について（学習材観）

本単元で扱う学習材は、教科書教材「日本文化を発信しよう」と、自作の文例である。

①文例

「日本文化を発信しよう」は、日本文化について調べたことや伝えたいことをパンフレットという形で文章にする言語活動が設定されている。文例は、3段組みの構成で、「見出し」「リード文」「小見出し」「写真・図解」「記事」「コラム」が一貫したテーマで書かれている。本単元では、この文例を参考に学校を紹介する推薦文の文例を作成した。

単元の導入では、文例を2つ提示する。2つの文例共に、「見出し」「リード文」「小見出し」「写真・図解」「記事」「自分の思い」が書いてある。更に、一方の文例には「コラム」、もう一方の文例には「Q&A」のコーナーがある。2つの文例を比べながら読むことで、共通点や相違点を見付けさせ、必ず書く内容と自分で選んで書く内容を児童自身が気付くことができるようにする。観点として、以下のことをおさえる。

- ・必ず書くこと（「見出し」「リード文」「小見出し」「写真・図解」「記事」「自分の思い」）。
- ・自分で選んで書くこと（「コラム」「Q&A」など）。
- ・見出しとリード文、記事、写真・図解につながりがある。
- ・テーマと具体的な例につながりがある。

また、文例を分析することで、児童はゴールをイメージし、今後どのような学習をしていくのか見通しをもつことができる。

②評価シート

評価シートとは、文例の分析で出た観点（上記参考）について、児童から出た表現を使いながら作成したチェックシートである。評価の項目は、学習に沿って、児童自身が追記することもできる。本単元では、構成や記述、推敲の段階で評価シートを活用し、自己評価・相互評価をしながら、書き表し方を工夫できるようにする。推敲段階では、自分の作品のコピーに矢印などの印を書き込みながら、評価シートの観点を確認していく。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、来年度入学予定の保護者の方に、推薦文を通して学校のよさを伝える学習である。本単元を設定するうえで考えたことは以下の通りである。

- ・6年生は学校で多くの経験をし、様々な思いをもっている。
- ・テーマが学校のよさであるため、自分事として考え、思いを込めることができる。
- ・卒業を前に、学校や在校生に6年生としての姿を残すことができる。
- ・身近なテーマであるため、資料を集めやすい。
- ・情報量を整理することで、読み手に理解されやすい。

このことから、本単元は、児童の思いと読み手のニーズに込めながら書くことができる6年生にしかできない学習である。

0次として、総合的な学習の時間や1年生との関わりを通して、学校のよさに目を向ける態度を醸成してきた。

導入では、校長先生からの依頼で、新1年生の保護者に学校のよさを伝える推薦文を書くことを伝える。学習材観で述べたように、文例の分析を行うことで、ゴールイメージをもたせられるようにする。ゴールに向けて、どのように学習を進めていくとよいかを児童と一緒に考え、学習計画を作る。学習計画を掲示し、毎時間、振り返りをさせることで、主体的に学習に取り組むことができるようにしていく。テーマについては、まず総合的な学習の時間を想起させながら、様々なテーマを出し合う。

そして、自分の思いと保護者のニーズを基に、テーマを決める。

取材にあたっては、校内の紹介したい場所などの写真を撮るとともに、千駄木小について詳しい人にインタビューしたり、周年の記念誌を調べたりする。インタビューをする際は、知りたいことを明確にしてから臨ませたい。構成の段階では、導入で用いた文例よりも内容が不十分な文例と、その取材資料を提示する。第1時で作成した評価シートを用いて、児童と一緒に文例を直していく活動をしなが、見出しと記事、記事と写真などのつながりを意識できるようにしていきたい。その後、一人一人が取材で集めた材料を整理し、構成をしていく。また、必要に応じて、取材に戻ってもよいことを伝える。記述では、手書きにするか、タブレットの文章入力ソフトを活用するか児童が選べるようにする。書いた文章は、評価シートを基にまずは自分で行い、その後、グループによる推敲をする。

4 研究主題に迫るために

(1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 児童の実態に応じた学びの必然性がある課題

本単元で指導する文章には、次年度の新1年生の保護者に向けて自校を紹介するという明確な相手意識・目的意識がある。最高学年として、また卒業を控えた時期において、自校の良さに改めて目を向けることには児童自身が学びの必然性を感じることができると考える。と同時に、情報を収集したり整理したりする中で、互いの考えの違いに気付いたり共感できる部分を発見したりし、学びを深めることのできる題材であると捉えている。

② 豊かな語彙の充実

本単元では、自身の決めたテーマに即して写真や図解を活用しながら、一貫性のある文章を書くことをねらう。その中で、児童が伝えたいことを明確にし、その内容を的確に伝えるための語彙を選択したり、構成を分かりやすくするために必要な語句を用いて文章表現を工夫したりすることができるよう指導する。具体的には、写真や図解を使うことで必要となる語句の使い方(「この写真と比べてみると〜」「この図からは〜」等)についても触れながら指導をしていく。

③ 学習の成果物等の活用・共有

学習材観でも述べた通り、作品として完成させる際には三段構成とし、リード文や見出し等を活用したものを推薦文とする。学習の成果物として、新1年生保護者会で読んでもらう等、外部に発信することを目指す。学級内で読み合う活動を越え、実際に外部の方にとって有益な情報となることを実感することで、自身の文章の良さと向き合い、次の学びへとつなげていくことができるよう指導する。

(2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

① 言語活動の特徴や学習状況に応じた評価活動

本単元がねらう力を達成するために、適宜児童の学習状況を把握していく。そのための方法として、座席表型指導簿を活用する。学習活動に即して前時までの児童がどのような状態なのか、本時ではどのような具体的な指導・支援を行うのかを記したもとして準備しておく。学級の児童全員が「おおむね満足できる状況」を達成できるよう、教師が一単位時間の中でどのような指導をしていくのかを可視化することをねらう。さらに、特別な支援を要する児童への配慮についてもここに記載しておき、授業改善を図る。

② 児童が自らの学びを振り返り、調整できる学習過程

単元の冒頭で複数の文例を提示し、学習課題を確かめた上で学習計画を立てる。新1年生の保護者に読んでもらうことを単元のゴールとし、そのためにどのような学習過程が必要かを全体で共有することで、児童自身が自らの学びを見通すことが可能となる。また、学習過程ごとに児童に振り返りを文章化させ、教師がそれに価値付けをしていくことで、学習調整力を育成していく。児童自身が学習過程を柔軟に行き来できるように教師が支援すると同時に、自らの学びを調整できた児童についてはその姿を学級内で共有し、モデル化することで授業をデザインしていきたい。

③ 児童が学びの変容を自覚できる自己評価、相互評価

学習材観でも述べた通り、文例を元にして身に付けるべき力を整理した上で、評価シートを作成する。評価シートは学習過程ごとに必要に応じて活用し、自分の文章を読み直す道標とする。これは、既習事項に立ち返りながら自身の変容を記録するもので、自己評価や相互評価として活用していく。

一方で、完成した作品を学級内で読み合い、評価シートに基づいてチェックをすることで相互評価をする時間も設定する。友達が書いた文章を読むことを通して自身の文章の良さに気付き、単元全体を通した自己の変容にも触れることができるよう指導する。

(3) 言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫（行事や他教科等の指導と関連させた学習活動）

上記でも述べた通り、新1年生保護者会にて新1年生の保護者に読んでもらうことをねらいとしている。次年度自校に通うことに安心感をもってもらうことや、よい学校であることを効果的に伝えるために、適切な表現のしかたや語彙の選択をすることで、必要感のある学びが生まれ、言葉の力の活用場として成立すると考える。

5 単元計画

過程(次)	時	学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
○		○総合的な学習の時間や日常的な1年生との関わりを想起し、情報を共有する。 ○自分が1年生の時に教えてもらって嬉しかったことや、知りたかったことなどからテーマを検討する。		
一	1	○文例の分析をし、学習のゴールイメージをもつ。 ○次時以降の学習計画を立てる。 ○自分の思いをもとに、紹介するテーマを決める。	・情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア	○校長先生から学校を紹介してほしいという依頼があったことを伝え、目的意識をもたせる。 ○文例を2つ用意する。2つに共通することなどを分析させることで、構成や内容のつながりに気付かせる。 ○文例の分析で出たことを基に評価シート作成する。 ◆[態度①] ★発言、ふり返りシート
二	課外 2 3 4 5 本時	○紹介するテーマについて詳しく調べる。 ○調べた情報を整理し、自分の考えをまとめる。 ○不十分な文例を評価シートを参考に直していく。 ○推薦文の構成を考える。 ○伝えたいことが伝わるような書き表し方の工夫(つながり)について確かめ、記述する。 ○評価シートをもとに推敲(自己評価、相互評価)し、書いた文章を修正する。	・情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア ・書くことにおいて、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。 [思考力、判断力、表現力など] B(1)イ ・書くことにおいて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫	○周年の記念誌を用意したり、教職員に取材の依頼を事前に行ったりする。 ○テーマ、調べたこと、考えたことなどが整理できるワークシートを用意する。 ○内容が不十分な文例を提示して全員で直していくことで、構成の段階で「つながり」を意識できるようにする。 ○手書きか、タブレットか児童に選ばせる。タブレットでの入力の際は、体裁は気にせずに入力してよいことを知らせる。 ○作品のコピーに直接矢印などを書き込ませることで、書き表し方の工夫を確認できるようにする。 ◆[思・判・表①] ★ワークシート ◆[知識・技能①] ★推薦文 ◆[思・判・表②] ★推薦文、評価シート

			することができる。[思考力、判断力、表現力など] B(1)エ	
三	6	○推薦文を読み合い、書き表し方の工夫について伝え合う。		◆ [思・判・表②] ★推薦文
実 の 場		○推薦文を新1年生保護者会で掲示し、保護者に読んでもらう。		

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

伝えたいことが伝わるように、書き表し方を工夫して紹介文を完成させることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習について、自分の推薦文や振り返りシート、掲示物を見て振り返る。 ・書き表し方の工夫を確かめて、推薦文を書いた。 ・推薦文がきちんと書けているか心配だ。 ・友達はどうな推薦文を書いているのだろう。 ・見直しをして推薦文を完成させよう。 <p>2. 評価シートを基に推敲（自己評価、相互評価）し、書いた文章を修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価シートの項目ができていないか、確認しよう。 ・文章と写真を線で結ぶとつながっているかどうか確かめやすい。 ・友達にも確認してもらおうと安心だ。 ・友達作品を一人で推敲するのは不安だ。 ・もう1度見出しを考えよう。 <p>3. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○前時の記述の段階に手書きか、タブレットで入力するかを児童に選ばせ、取り組めるようにする。</p> <p>○タブレットでの入力の際は、体裁は気にせずに入力するように伝える。</p> <p>○文例と評価シートを提示し指導者が実際に推敲をやって見せることで、推敲の方法と評価シートの観点を明確にする。</p> <p>○作品のコピーを用意することで、直接矢印などを書き込ませ、書き表し方の工夫を確認できるようにする。</p> <p>○自己評価をした後、グループで相互評価をする。グループで相互評価することで、一人では推敲に自信をもてない児童も安心して友達にアドバイスできるようにする。書き手は、どのような思いで書いたかを作品を見せながら聞き手に説明する。読み手は、書き手の思いが伝わる書き方になっているかどうか考えながら聞く。グループ内で対話をしながら書き手と読み手が納得できる交流をしていく。【感染状況によって、付箋での交流に変更】</p> <p>○紹介文が完成した児童から、教室の後方で読み合ってもよいことを知らせ、評価シートを基に紹介文を確かめ合うことができるようにする。</p> <p>○振り返りシートに目当てに沿って、本時の学習でできたこと、難しかったことを振り返らせ、次時への課題を見いだすことができるようにする。</p>	<p>◆伝えたいことが伝わるように、書き表し方を工夫して推薦文を完成させている。 (★推薦文、評価シート)</p> <p>○概ね満足できる児童への手立て 取材メモや撮ってきた写真などに立ち返らせ、伝えたいテーマがよりよく伝わる材料や書き表し方について考えさせる。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て 伝えたいテーマに合った見出しや記事、写真などになっているか、一つ一つ確認させる。その後、見出しと記事、記事と写真などのつながりを確認させる。</p>

7 資料

【第1時 板書例】



【第3時 板書例】



【本時 板書計画】



ぜひ食べてほしい！鶴二の特製あげパン

食感の秘密は大きな釜



↑ 直径は大人が大きい手を広げたくらいの大きさの釜。

鶴二小のあげパンは、外はカリッカリ、中はもちもち。
その食感の秘密はこの大きな釜。この大きな釜に五〇リットルの油を入れて、一八〇度の熱さで一クラス分のツイストパンを一気にあげることで、やみつきになるあの食感がうまれます。

四種類の味から選べます

鶴二小のあげパンは、まわりにまぶす粉の味を一人一人が四種類から選べます。
その四種類とは、きなこ、さとう、ココア、抹茶です。
自分が選んだ味の粉がたっぷりついたあげパンは特別なおいしさですよ。



↑ あげたパン一つ一つにたっぷりの粉をまぶしてくれます。

鶴二小のあげパンはひと味ちがいます。おいしさの秘密は何でしょうか。一年に一回必ず出るので楽しみにしてみてください。

あげパン裏話

調理員さんがつきつきり

パンをあげるとき、一八〇度の油であげるの
で、鍋の周りはとても熱くなります。パンがこ
げないように何度かひっくり返さなければいけ
ないので、調理員さんたちはつきつきりです。
あげパンの食感は、調理員さんたちのおかげで
うまれています。

一番人気の味は？



一番人気は、やっぱり王道のきなこ。これは五年間変わらな
いそうです。今年は、
きなこ、ココア、さ
とう、抹茶の順でした。
みなさんだったら、
何味にしますか。

安心してください！ 富小の優しい上級生

富小には、下級生に優しい上級生がたくさんいます。緊張しているとき、困っているとき、頼りになります。安心して入学してきてください。

「おはようございます！」「こんにちは。」
校門で、廊下で すれ違うときは目を見てあいさつ

挨拶の様子

1日の様々な時間、様々な場所で、上級生から積極的に挨拶をしています。朝と帰りは、校門のところで当番の6年生が待っています。緊張して登校しても、挨拶をし合えば安心できます。毎日繰り返しているうちに、いろんな6年生と仲よくなることもできますよ。



朝
校門で挨拶当番

「なかよし班」で関係づくり
休み時間に一緒に遊ぶことも



「なかよし班」とは、1年生4~5人と、6年生で作る班のことです。月に1回のなかよし班の時間に、校庭や屋上、体育館などで一緒に遊びます。遊びの内容は上級生が考えてくれます。

たくさん顔を合わせているうちにだんだん仲よくなり、休み時間にもお互いの教室に誘いに行き遊びます。

～ Q & A お悩み相談コーナー ～

Q. 幼稚園から、小学校の生活にすぐに慣れることができるか不安です。
(小川さん母)

A. 安心してください！4月から5月の初めまで、6年生が手伝いにいきます。朝の準備時間や給食、掃除、休み時間など、学校での過ごし方が分かるように、寄りそいます。

Q. 無事に学校にたどり着けるのか、心配です。(山田さん父)

A. 通学路コースがあり、同じコースの上級生と登校することができます。集合場所も決まっているので、時間が同じであれば、一緒に登校することができます。

地区	コース
富ヶ谷1丁目	赤
富ヶ谷2丁目	青
上原1丁目	黄
元代々木町	緑
代々木3丁目	水色

【第1時を受けて作成した評価シート】

チェックシート		6年 組 番 ()	
チェックすること		自分	
テーマに合った項目につながりがあるか。	① 「見出し」と「リード文」がつながっている。		
	② テーマ（伝えたいこと）に合った記事を書いている。		
	③ 「記事」に合った「小見出し」と「写真・図・解説」になっている。		
	④ 自分の思いを書いている。		